

城西大学薬学部 白瀧 義明 (SHIRATAKI Yoshiaki)

フクジュソウ *Adonis ramosa* Franch. (キンポウゲ科 Ranunculaceae)

お正月の縁起物として、新年にヤブコウジなどと一緒に植えられた鉢植えを良く見かけますが、関東で地植えのものが花を付けるのは2月中旬からです。フクジュソウ(福寿草)の名は春一番に咲くおめでたい花ということから名づけられたようで、別名をガンジツソウ(元日草)ともいい、旧暦の正月(元日)頃に花が咲いたことに由来します。フクジュソウ属植物は日本にはフクジュソウ、キタミフクジュソウ、ミチノクフクジュソウ、シコクフクジュソウの4種があるとされ、これらはシベリア東部、中国、朝鮮半島、日本に分布し、フクジュソウは北海道から九州にかけて自生しています。本植物は2月頃に、地下の根茎より茎を出し、直径3cmほどの光沢のある黄金色の花を咲かせます。黄金色がフクジュソウを象徴する色ですが、多くの園芸品種があり、黄色系、赤花系、変わり咲きの段咲き系などをはじめ、一重咲き・半八重咲き・八重咲きなどもあります。花が咲く時、最初は葉が無く、花だけが1つ2つと開くのですが、徐々に花の数を増し、次第に花をたくさん咲かせていきます。その後、茎が上に伸び、ヨモギやニンジンに似た葉を広げて野菜のようになりますが、6月頃に葉は枯れ、長い休眠期に入ります。つまり初春に花を咲かせ、夏までに光合成を行い、それから春までを地下で過ごすという、典型的なスプリング・エフェメラル(早春季植物)です。花は長期間咲き続けますが、朝開いた花は夕方には花びらを閉じます。また、日が当たらないと花びらを閉きません。(晴れの日には日が当たると花びらが開き、日が陰ると1日閉じています。)このことから、花は光を感じて咲くと思われていま



写真1 フクジュソウ (黄花系)



写真2 フクジュソウ (赤花系)



写真3 フクジュソウ (三段咲き系)



写真4 フクジュソウ (根)

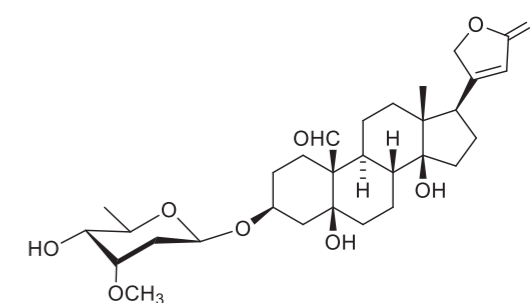


図1 cymarin の構造式

したが、暗黒条件下でも温度が10℃以上になると咲くことから熱を感じて咲くことが判明しました。フクジュソウは昆虫に花粉を運んでもらう虫媒花ですが、花に蜜はなく、蜜の代わりに昆虫を引き寄せるため、花びらで囲んだ暖かい空間を用意しています。おわん型にふんわり咲くフクジュソウの花はまるでパラボラアンテナのようで、太陽光を花の中央部に集めることにより保温しています。さらに、太陽の動きに合わせて花の向きを変え、保温力を高めています。根はとても立派でゴボウにも似たまっすぐな太いものを多数持っています。また、根は強心利尿作用があるとして民間で使われ、全草に強心配糖体シマリン cymarin (strophanthidin の D-cymarose 配糖体) などを含み、これらの成分は毒性(副作用)も強く、素人の利用は非常に危険です。地面から芽を出したばかりのフクジュソウは、フキノトウと間違えやすく、また、若葉はヨモギの葉にも似ていますので誤食による食中毒事故にはくれぐれも気をつけたいものです。